

New Horizon 第4回 Lessons

Lesson 4-1: 助動詞 can 肯定文 (一般動詞編)

助動詞とは動詞だけでは表すことができない「可能」や「必然」を表す単語です。例えば、今回学びます can は、go (行く) という単語につけることで、「行くことができる(可能)」「行ってもよい(許可)」という意味を足すことができます(意味の使い分けは文脈によって判断します)。助動詞は「一般動詞の文」と「be 動詞の文」の両方につけることができますのですが、今回は比較的簡単な一般動詞の文につく形だけを学んでいきます。

【助動詞 can の肯定文 (一般動詞編) : 基本の形&作り方】

助動詞の can の使い方は簡単。なぜなら、一般動詞の文を作り、一般動詞の前に can を足せば完成だからです。そして、助動詞の can は、全ての主語 (I / you / we / they / he / she / it やこれらに言い換えられるもの) で使うことができます。

【助動詞 can 肯定文 (一般動詞編) : 基本の形】

主語 + can + 一般動詞の原形 + ~.

(「主語」は「一般動詞」することができます 【可能】)

(「主語」は「一般動詞」してもいいです 【許可】)

<例> They can read Japanese. (彼らは日本語が読めます) 【可能】

She can go there. (彼女はそこに行ってもいいです) 【許可】

【作り方】

ステップ 1: 主語に関係なく、主語 + 一般動詞 + ~. とした肯定文の形を作る。

ステップ 2: can を一般動詞の前に足す。

<例 1: 彼らは日本語が読めます>

ステップ 1: 主語に関係なく、主語 + 一般動詞 + ~. とした肯定文の形を作る。

「彼らは日本語を読みます」

_____ They read Japanese.

ステップ 2: can を一般動詞の前に足す。

_____ They can read Japanese.

<例 2: 彼女はそこに行ってもいいです>

ステップ 1: 主語に関係なく、主語 + 一般動詞 + ～. といた肯定文の形を作る。

「彼女はそこに行きます」

_____ She go there. _____

ステップ 2: can を一般動詞の前に足す。

_____ She can go there. _____

【ポイント！】

can の文章でよく登場する 副詞の fast / well

「fast =速く」「well =上手に」という副詞は、can の文章ではよく登場します。例えば「彼は速く走ることができます」「彼女は上手にピアノを弾くことができます」といった文を作る時に使われます。fast / well には、強調を表す very (とても) を足すこともでき、基本的に「動詞 (+ 目的語)」の後に足されます。

<例> He can run fast. (彼は速く走ることができます)
She can play the piano very well. (彼女はピアノをとても上手に弾くことができます)

Lesson 4-2: 助動詞 can 否定文 (一般動詞編)

基本的に助動詞の肯定文を否定文に変えるには、**助動詞の後ろに not を足してあげるだけ**で完成となります。つまり、今回の can の場合、can の後に not を足してあげれば完成となります (しかし、**形が cannot と「can と not が一語になる」**ので注意してください)。また、cannot を短縮させた **can't** もよく使われます。

【助動詞 can の一般動詞の否定文：基本の形】

主語 + cannot + 一般動詞の原形 + ～.

主語 + can't + 一般動詞の原形 + ～.

(主語は～できません)

<例> We cannot (can't) go there now. (私たちはそこに今は行けません)
He cannot (can't) play badminton. (彼はバドミントンができません)

【作り方】

ステップ 1: can の**肯定文**を作る。

ステップ 2: can の部分を **cannot / can't** に入れ替える。

<例1：私たちはそこに今は行けません>

ステップ1: can の肯定文を作る。→ 「私たちはそこに今行けます」

We can go there now.

ステップ2: can の部分を cannot / can't に入れ替える。

We cannot (can't) go there now.

<例2：彼はバドミントンができません>

ステップ1: can の肯定文を作る。→ 「彼はバドミントンができます」

He can play badminton.

ステップ2: can の部分を cannot / can't に入れ替える。

He cannot (can't) play badminton.

【ポイント！】

I speak Japanese. と I can speak Japanese. の違い

基本的に「I speak Japanese. = 日常的に日本語を話している」という意味になり「I can speak Japanese. = 日本語を話す能力を持っている」という意味になります。同様に、否定文でも「I don't speak Japanese. = 日常的に日本語を使わない」という意味となり、I can't speak Japanese. = 日本語を話す能力がない」という意味になります。

Lesson 4-3: 助動詞 can 疑問文（一般動詞編）

助動詞 can の疑問文は、肯定文の形にした後で、can を文頭に持ってくれば完成となります。つまり、基本的な形に以下のようになります。

【助動詞 can 疑問文：基本の形】

Can + 主語 + 一般動詞（+目的語）（+～）？

（「主語」は～できますか）（「主語」は～してもいいですか）

*Can you ~? は、「～してくれますか」という意味でも使える。

- <例> Can Jim play soccer? (ジムはサッカーができるのですか)
Can I buy it? (私はそれを買ってもいいですか)
Can you help me? (私を手伝ってくれますか)

【ポイント！】

会話などでよく登場する Can I help you?

Can I help you? は、「私はあなたを助けられますか」という意味ではなく「お手伝いしましょうか」「(お店などで)何かお困りですか」といった意味になります。会話ではよく登場する形なのでぜひ覚えておきましょう！(Can I help you? だけでなく、少し丁寧な言い方の May I help you? という表現もある)

【助動詞 can 疑問文：作り方】

ステップ 1: 助動詞 can の「肯定文」を作る。

ステップ 2: 文頭に Can を持ってきて、最後を ? にする。

<例 1: ジムはサッカーができるのですか>

ステップ 1: 助動詞 can の「肯定文」を作る。 → ジムはサッカーができます。

_____ Jim can play soccer.

ステップ 2: 文頭に Can を持ってきて、最後を ? にする。

_____ Can Jim play soccer?

<例 2: 私は、それを買ってもいいですか>

ステップ 1: 助動詞 can の「肯定文」を作る。 → 私はそれを買ってもいいです。

_____ I can buy it.

ステップ 2: 文頭に Can を持ってきて、最後を ? にする。

_____ Can I buy it?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。

Yes, 代名詞 can.

No, 代名詞 *can't.

* can't 使うのが一般的だが、cannot と分けることも可。

Can ~? でなので、can で答える。

do で答えないように注意。

<例> Can you play soccer?

Yes, I do. =×

ただし、会話文などでは Yes / No だけしか言わないことも多い。

<例1> Can Jim play soccer?

はい → **Yes, he can.**

いいえ → **No, he can't. (No, he cannot.)**

<例2> Can I buy it?

はい → **Yes, you can. (*Sure. / Of course.)**

いいえ → **No, you can't. (*I'm sorry, you can't.)**

* 「～でもいいですか」「～してくれますか」と許可を求めたり依頼をしたりする場合の疑問文では、「もちろん」という意味で **Sure** や **Of course** も答えとしてよく使われる。また、**No** と断る際も、**No** だけだと強いので **I'm sorry, (but) you can't.** の形にすることが多い。

Lesson 4-4: 冠詞

冠詞とは、a/an/the といったものです。もうすでに、a/an については使い方を理解していると思いますが、the については“play the 楽器”“practice the 楽器”でしか登場していないので、ここでは「the と a/an の違い」を確認しながら「the の使い方」について学んでいこうと思います。

【a/an の特徴】

(1) 不定冠詞（特定の物を指さない冠詞）

(2) 基本的に可算名詞（単数形）につく

<例> I have **a** new computer. （私は新しいパソコンを **1**台 持っています）

（特定されている新しいパソコンではなく「ある新しいパソコンを1台持っている」という意味）

I have **an** old car. （私は古い車を **1**台持っています）

（特定されている古い車ではなく、「ある古い車を1台持っている」という意味）

(3) a/an の代わりに **one** が使えることが多い

<例> I want **one** new computer. （私は新しいパソコンを **1**台 持っています）

I have **one** old car. （私は古い車を **1**台 持っています）

【the の特徴】

(1) 定冠詞（文の流れや状況から、何の名詞について話しているのか特定されている時に使う共通認識を表す）

(2) 可算名詞（単数形・複数形）だけでなく、不可算名詞にもつく

(3) 日本語では「**その**」と訳されることが多い

<例> I have **the** new computer. (私は、**その**新しいパソコンを持っています)
(会話をしている人たちの間では「どの新しいパソコンか」理解されている)

I have **the** old car. (私は、**その**古い車を持っています)
(会話をしている人たちの間では、「どの古い車か」理解されている)

(4) 一度登場した「(a+) 名詞」は、それ以降は「**the** + 名詞」で使われる (どの名詞について話しているか限定されるため)

<例> I have a computer. **The** computer is very small.
(私は、1台のパソコンを持っています。**その**パソコンはとても小さいです)

(5) 「ただ1しかない (と考えられている)」もの

<例> 太陽 = **the** sun **The** sun is big. (太陽は大きいです)
世界 = **the** world I want to change **the** world. (私は世界を変えたいです)

(6) 名詞の一部になっているもの

<例> アメリカ合衆国 = **the** United States (of America) 太平洋 = **the** Pacific (Ocean)

(7) フレーズとして覚えた方がよいもの

<例> 午前 = in **the** morning 午後 = in **the** afternoon
夕方に = in **the** evening (ただし「夜に」は at night が一般的)
楽器を演奏する = play **the** 楽器
(日本の) ○○地方 = **the** ○○ area / region <例> **the** Kanto *area (関東地方)
*area / region = 地方 / 地域

【ポイント！】

the が入らないフレーズ

go to school (学校に行く) のような決まったフレーズの場合、本来であれば the や 所有格が入りそうな場面でも、入らないことがありますので、注意してください。

<例> I go to school. (私は学校に行きます)

<「自分が通っている学校」なので、the school / my school となってもおかしくないのだが、go to school は決まったフレーズのため、the や所有格はつかない>

【the を理解するポイント】

the を理解するために必要なポイント、文章がどのような状況で使われているのか想像することです。例えば、以下の文。

I want to go to **the gym**. (私は体育館に行きたいです)

この文章では、“a gym”よりも“the gym”が使われることが多いです。なぜなら、話をしている当事者の間では「どの体育館」なのか限定されていることが多いからです。例えば会話の中で「バスケットをしたいから、体育館に行きたいです」といった文が登場した場合、お互い『どの体育館について話をしている（おそらくいつもバスケットをする体育館）』か、理解していると考えるのが自然ですよ。そのため、the gym がよく使われます。他にも、

I am in the baseball club. (学校の部活動としての「野球部」を指す場合)

といった例もあげられます。同様の理由で supermarket (スーパー) / bank (銀行) / library (図書館) なども、(毎回ではありませんが) 冠詞に the が使われることが多いです。

=====

I want to go to the supermarket. → 「いつも買い物に行くスーパー」という意味。

I want to go to the bank. → 「自分の口座がある銀行」という意味。

I want to go to the library. → 「学校の図書館」「いつも行く図書館」という意味。

=====

このように、the の使い方を理解するポイントは、「この文章はいったいどういう状況で使われているのかな？」と想像することです。練習でも「どういう状況で使われているのか？」を想像しながら問題を解いていきましょう！

【ポイント！】

なぜ play the 楽器 / practice the 楽器となるの？

この the には、いろいろな説があるのですが、代表的なものとして、自分が弾く・練習に使う楽器はある程度特定されているからというのがあります。例えば「私はピアノを弾きます」という文で登場するピアノは、おそらく自分のピアノ、ピアノ教室にあるピアノ、あるいはコンサート会場にあるピアノなどある程度限定されています。そのため、the がつくと考えられます。

余談ですが「(1台の) ピアノを作る」という場合、一般的には make a piano となり the は使われません。これは「ある1台のピアノを作る」というように限定されないからと考えられます。